



No.2

Nico Nico ニコニコ

カナダ・カルガリー出身でハンガリー、オーストラリア、エクアドル（サンタクルス島）など、各国の文化に触れてきたニコールさん。独自の感性を持つ文化コラムに出あえるかも知れません。

I love traveling, not just traveling but actually living in different cultures and really immersing myself in the country. I am very fortunate to be involved with the JET program which not only encourages me to be a good teacher but also promotes internationalization. I'd like to share with you a few stories of my adventures to different parts of the world.

I started traveling with the goal of living on 5 continents (Europe, Asia, Africa, South America, and Oceania) and learning to speak 5 languages before I turn 30. My first adventure in achieving this goal took me to Hungary.

Hungary is a small country of only 10 million people in central Europe. Hungarian, the main language, is very unique to this part of Europe. In fact, no one is really sure where it came from. The closest relative to the Hungarian language is Finnish and Finland is very far away. I went to Hungary to complete high school with the Rotary program. I lived on a small farm outside of a town of about 11,000 people. It was very interesting to live in a country that has so much history. The fact some of my friends had lived the first part of their lives in communism and under Russian control made me appreciate the fact I come from Canada so much more. I enjoyed playing water polo and eating goulash (a Hungarian stew) straight from a caldron cooked over an open fire. I love Hungary and I will always be close to the friends I made there; I've actually gone back and visited 4 times!!!

Here are some Hungarian words to try:
Szia - Hello- Konnichiwa
Koszonom- Thank you- Domo Arigato
Hogy vagy?- How are you?- O-genki desu ka

私は旅行が大好きです。それもただ旅するだけではなく、その国に住んでその文化に溶け込むことが好きです。今回のJETプログラムでよい教師を目指したり、国際化を進める機会が与えられ幸運に思います。これから数回にわたり、これまでに行った国についてお話したいと思います。

30才になるまでに5大州（ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南アメリカ、オセアニア）に住み、外国語も5つは習得しようと思い、旅を始めました。そして最初に選んだのがハンガリーでした。

ハンガリーは中央ヨーロッパにある人口たった1千万人の小さな国です。主な言語であるハンガリー語はこの地域特有のもので、その起源は定かではありません。最も近いのがフィンランド語ですが、ハンガリーからは遠い国です。ロータリー・プログラムに参加した私は、ハンガリーで高校を卒業しました。人口1万1千人ほどの小さな町のはずれにある小さい農場にホームステイしました。豊かな歴史を持つ国に住むのは大変興味深いことでした。周りの友人は若い時にロシアの支配下で共産主義を経験しており、自分がカナダという自由な国の出身だということにありがたく思うようになりました。ウォーターポロ（水中ハンドボールのようなものでハンガリーの国技）に親しみ、ゴウラッシュというハンガリーのシチューを焚き火の鍋から直接食べたりしました。ハンガリーが大好きになり、一生の友達もできました。もう4回も里帰りしています。

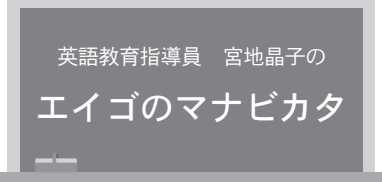
ハンガリー語をいくつかご紹介しましょう。
スィヤー=こんにちは
コスヌム=ありがとう
ホッジ ホッジ=お元気ですか。

(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

ハンガリー語の「スィヤー」（こんにちは）は、会ったときも別れるときも使える表現だそうです。そういえばハワイの「アロハ」、イタリア語の「チャオ」も、同じように両方使えます。便利ですね。また「スィヤー」は英語の「See you!」（またね）に発音が似ており、英語由来ではないか、という説もあります。ちなみに英語のもう一つのあいさつ「Good bye.」はもともと「God be with you.」（神があなたとともにありますように）という意味だったそうです。

最近私が出会っただけでも「Blakebrough」さん、「Chuy」さん、「Neutzing」さん…。どう読むのか検討もつかない名前で困りました。こんな時は、初対面の段階で遠慮せず、とにかく分かるまで何度でも本人に発音を確認することが大切です。発音や由来を尋ねることが会話のきっかけにもなります。ところがこれをやらないでいると、後でとても気まずい思いをすることになります。しばらくしてから聞き返すなんてつらいですよ。英



第65回
名前

語では相手の名前を呼び続けて会話するのが普通だからです。ところが（英語の授業でよくあることなのですが）生徒は「My name is...」までは威勢がよいのに、肝心の自分の名前を恥ずかしそうにさっと言っただけで済ませてしまうのです。名前の重要性に気づいていないのです。初対面では、相手が口にしてくれるまで、ゆっくりはっきりと自分の名前を連呼するくらいでちょうどいい。「My name is...」はなくても通じます。加えて「Please call me...」と自分の呼び方も付け加える相手は大助かりです。ファーストネームで呼び合うのが主流ですが、私は「オバマ」「ユキオ」なんていうのは苦手です。そういう場合苗字でいいと思います。さて、数年前の学力テストで「Jack」という名前が出てきました。女の子の名前だったのですが、ほとんどの生徒が「Jack」で答えて不正解になってしまいました。英語の場合、性別も大事です。日ごろから新聞や小説などを呼んで背景知識を蓄える必要がある、と痛感した出来事でした。